

GUNDAM

MS HISTORICA

ガンダム
MSヒストリカ

ガンダムの世紀

皆河有伽

第6回内なる「ガンダム」の心「神話」

GUNDAM SIDESTREAM

ガンダム・サイトストリーム

第6回 GUNDAM SIDEVIEW

GUNPLA Revelations

～ガンプラ30年の歩み～

第6回 MGからRGへ

その先にあるガンプラの未来

進化系ガンダム特集

Gを超える、先へと進むもの

F91 ガンダム F91 LM312V04 V ガンダム RX-0 ユニコーンガンダム

F91 GUNDAM FORMULA-ST
LM312V04 VICTORY GUNDAM
RX-0 UNICORN GUNDAM



Gを超える



最強の称号を受け継ぐのなら、停滞は許されない。

目指すは究極の機体、究極のガンダム。

ガンダムとして誕生しながらガンダムを超えるべく、
進化の道を行く——。

先へと進むもの

新世纪を駆ける新世代機

登場以来40年余、高性能化の一途をたどってきたMSは、平和の訪れとともに長い停滞期に陥った。だが、技術革新の波は着実に迫っていた。ガンダムF91は、まさに新技術を結集して造り出された、U.C.0120年代初頭を代表する新世代MSだった。

長き停滞の果てに

U.C.0079年に実戦に投入されて以来、MSの性能向上のさまには、目をみはるものがあった特に最初の10年においては、西暦で呼ばれた時代に、航空機からレシプロ機から超音速ジェット機に進化した時以降の、劇的な変化が起きている。

たが0090年代初頭、MSは進化の歩みを急速に鈍らせる。地球圏に目立って大きな紛争もなく、新兵器開発の必要性が薄れたことが、理由の一つである。さらに、当時MS生産をほぼ独占していた



たA.E.社は、利潤の入りきりジェンの生産を廃止するため、後に地球連邦軍が提唱した、MSの小型化の要請に本腰を向けて向き合おうとはしなかった（ジェンはマイナーチェンジを受けながら、結果的に連邦軍の主力機として0120年代まで運用され続けた）。

そんな折、クロスボーン・パンガードによる武



飛行機が勃発する。彼らは連邦軍に先駆けて小型化された高性能MSを量産しており、最先端技術であるビーム・シールドまで機甲装備としていた旧態依然たるジェンや、そのスケルダウムモデルであるハピガルでは、それらに敵うはずもなく、連邦軍は為す術もなくクロスボーン・パンガードによる蹂躪を受けることとなった。

この体験は、一年戦争初期、シオン公国軍の練



度的な性能差を見せつけるかのように、連邦軍のMSを暴走していく

り出したザクの前に連邦軍が敗北された。苦い記憶を蘇らせるものだった。

フォーミュラ計画

0110年には連邦軍内でも、海軍戦略研究所（サナリイ）において（A.E.社に半ば見切りをつけながら）「計画」と呼ばれる次世代MSの研究が進められていた。0111年から数々の実用試作機がロールアウトされていた。なかでもF91は、計画の集成とも呼べる機体で、F90シリーズ（かつて、ひとつの機体に多機能を盛り込もうとするあまり、MSのサイズと製造コストが膨れ上がっていた事実を踏まえ、直角に応じて装備を配置する、ミッションパック方式を採用している）という多岐にわたる状況下での運用を前提とした試作機群のデータを踏まえ、誕生したものだ。そこには惜しみなく最先端技術が投入され、小型化MSの性能の限界を追求している。結果、当時強の性能を得たが、乗り手を想定しなくとも良くなっていた。

だが、クロスボーン・パンガードのMS群と、それらを相手に目覚ましい戦果を挙げたF91の登場は、連邦軍とA.E.社の蜜月を、はっきりと終わらせるに至った。新たなコンセプトを持ち、新たな開発者達によって育み出される小型MSを中心とした、第2期MSの時代が訪れたのだ。

Basic Knowledge of G

コスモ・バビロニア建国戦争の時代

慈情なる平穏の時代

魔2ネオ・ジョン報告の終幕後、地球圏は次第に平穏な情勢を取り戻していった。戦争のない世界は、經濟的安定を得て、おいおいに発展していった。統一、人類は宇宙へ出て以降、初めてとも見える（少なくとも既存的には）平和な時代を迎えることになった。それは、人類すべてが地上に暮らしていた時代と同じ、連邦の統治を呼び込むことになっていた。

新興コロニーとコスモ民族主義

この時代、多くのスペース・コロニーが新しく誕生している。これらのコロニーは、多くの地理圏に跨る工業生産を担うことになった。大きさを減少した人口と並んで、荒廃した地球上にはほぼ工業生産は地獄的な状態にあり、この時期の経済は、ほんとうした新

興コロニーによって支えられていたといつていい。

時代が下るにつれ、コロニーの魔術派のなかから、高貴で強大な魔術者が人類を統治するべきだという、一朝一夕で魔術主義的魔術を相手する人々が現れる。ロナ家はその魔術族であり、その魔術力で物を言わせて、小規模ながら連邦軍から漸く新規機を購入する事事務局を構成。地球連邦政府に対する武装撃撃を行ったのである。



シャアの反乱後の30年にわたる長き平和の中で、また新たなる争乱の種が芽吹こうとしていた。

コスモ・バビロニア連邦宣言書に記載された、マイツァー・ロナ。これらは世界の不満のあらわだろ。ナ、コスモ貴族主張の裏見者としてクロスボーン・パンガードの創設者でもある。



カロッジ・ロナ、新規の異名を持つ、クロスボーン・パンガード軍事部門の指導者。

SPEC

走行路 15.2m
本体重量 7.8t
全機重量 19.9t
ジオスレーテー出力 4,250kW
スラスター出力 784,400kg
装甲材質 カンダリウム合金セラミック複合材
式武器 砲塔/ミサイル×2
胸部アーマー/マシンキャノン×2
ワード・サーベル×2
ビーム・ライフル
ビーム・ランチャー
ビーム・メードル×2



F91はF計画において完成した結果専用の機体。強度をはるかに凌ぐ高出力を誇る。

F91 GUNDAM FORMULA-91

イラスト・小笠原智史

ガンダムF91の設計思想

U.C.0110年代に登場した第2期MSと呼ばれる一連のMS群の中でも、F91は飛び抜けた高性能を誇る新戦機である。最先端技術の数々が高い密度で集積された機体は、速性の高いパイロットが搭乗すれば、従来のMSでは成し得なかった高い運動性能を発揮することが可能となっている。

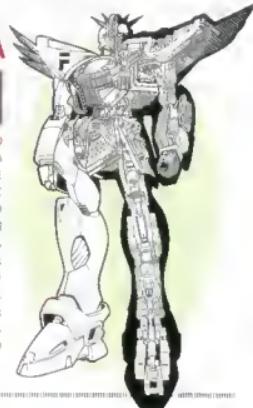
新型熟核反応炉の採用

新世代機の例に漏れず、F91には小型化と高出力化を図った新型熟核反応炉が搭載されていた。

小型化どころなら高性能化を同時に要求された新世代MSには、従来の胸板反応炉を搭載することは不可能だった。出力に対して、容積比や質量比が悪すぎたからである。MSの小型化にならなければ、反応炉の高性能化と同時に、容積炉で火力が欠かせなかったのだ。この条件を満たす新型反応炉を実現可能なものとしたのは、この胸板駆動蓄電だった。この1フィールド駆動技術だった。この1フィールドによって燃料となるヘリウム3や重水素を循環させ前状態まで圧縮、貯蔵しており、炉内で一気に反応させるというの、この新型炉の裏面である。この反応炉は、燃料を縮合炉で調整して炉内炉心にその搭載スペースが確保され、小さな炉心で大エネルギーを引き出すことができた。だが、反応炉のシステムが爆発した場合、解放された大量の熱が反応を引き起こし、かなりの確率で核爆発を引き起こす危険があった。この問題は、反応炉の原理にかかわるものだけにならぬ解決されず、後の時代まで引き継がれることになった。

マイクロハニカム技術とMCA

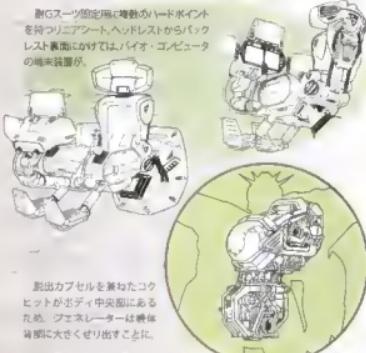
小型MSには、軽量で堅牢な新素材と、ムーバル・フレームに代わる新構造が採用されている



標準的コクピットとバイオ・コンピュータ

F91に採用されたバイオ・コンピュータは、この高性能機の根幹をなす技術の一つである。

F91では、パイロットの記憶や感情さらに機体の操作に取り込もうとする試みがなされている。このため導入されたのが、バイオ・コンピュータである。これは、パイロットの思考を脳波レベルで抽出し、操縦の補完や、思考での機体コントロールを可能とするものである。また、センサーが捉えた情報を、モニター上に表示されるだけでなく、まるでパイロット自身が「実際に感じた」かのように直感で伝達される。



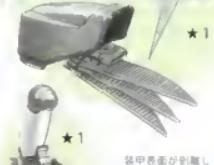
超高機動とその副産物

境界性能を引き出したF91は、他のMSを凌駕する躍進力を有したが、予期せぬ副産物もあった。

F91の各機能には、リミッターがかけられている。操縦者が最大性能を制御可能なニュータイプだと、F91は「判断」した場合、リミッターは解除され、機体は最大駆動モードへと進行する。それと同時に機体各所から放熱板が露出し、過負荷状態の機体を強制冷却し始める。放熱板による熱流の遮断だけでは追いきれない場合、装甲表面にはMPEE (Metal Peel off effect = 金属剥離効果) が発生するが、この剥離した金属粒子 (むろん質量を持ち、蒸気を発している) が実際に近い移動を形成し、衝突やセンサーを損傷するという効果を生んでいる。



★1
最大駆動時に、周囲のアーマーがせり出しへ放熱フィン。放熱板のたまの非常に複雑な構造を持つ。



★1
装甲表面が剥離し、本体の加速度とともに取り残される構造。



★1
金属の粒子は機体の刃を保持し、あたかも機体が分身したかのように躍進させる。

Weapons of F91

機体の小型化により固定装備の余裕はなくなったが、多様な装備を自在に持ち替え使用するという、MS本来の武器運用法に立ち戻ったともいえる。

ビーム兵器

ビーム兵器はF91の主武装である。これは、『フィールド制御技術』の発達により、この時期の兵器全体がビーム系へとシフトしていたためもあるが、機体の小型化とジェネレーターの大出力化により、余剰出力を充ててビーム兵器に回すことが可能となつたことが大きい。この新型ビーム砲ウェスパーを駆動できるのは、F91だけである。

ウェスパー

名はV S B R (Variable Speed Beam Rifle)

から ジェネレーター直結型ビーム兵器。ビームの吸収率と発射間隔を微調整できる。蓄電池を内蔵し、電力を新たに充電しても発射可能。



その威力はビーム・シールドをも貫くほど。
半固定式装備で、他の装備への換装も可能。



ビーム・サバヘル

ビームを高速で

込むことで、エヌルギー消費を抑えつつ、従来型以上の威力を実現している。



左端のサイド。

軽量化および高効率化により、サバヘルを、アーム内にラッピング回転させて防衛壁としても使用できる。

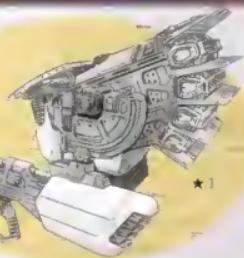
に、2基を装備

ビーム・シールド

トライルードを導体に雇用し、そこにミクスキー粒子を捕捉状態で吸収させて、防護効果を得る。多大な電力を必要とする一方、ビーム発生器のみを行っているようなものなので、蓄電池・シールドに比べて軽量で、再使用時にはスペースも取らない。



は、
MSの
防御力



★1

ビーム・ライフル

標準装備のビーム・ライフル。MS本体構造に小型化されているが、出力や発射可能弾数は従来のものと同等か、それ以上である。



ビーム・ランチャー

中・長距離攻撃用大型兵器。原理的にビーム・ライフルと同様のものだが、威力、吸収率はライフルより高く、取り回しが良くなつて威力も高い。



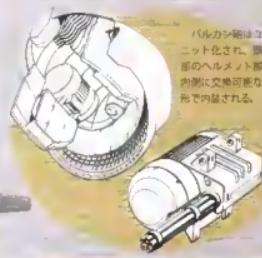
★1

突弾兵器

F91は固定式の突弾兵器も装備している。ビーム・シールドを装備するクロスボーン、バンガードのMS群が相手にする上では、あくまで補助的な装備にすぎないが、戦闘や牽制目的での使用を前提としているのだろう。

頭部バルカン砲

高ごみ込みで1門ずつ装備。RXシリーズの昔からの、連装重火器の伝統的装備だといえる。



バルカン砲はユニット化され、頭部のヘルメット部分内側に交換可能な形で内蔵される。



脚部メガ・マシンキャノン

脚部コアピット上方には、2門の大口径のマンキャノンが装備されている。シールドが使い難い戦闘戦闘で効率的に使用されねたといふ。



M91本体から切り離しても、追跡戦ならシールドを形成可能。



F91 ガンダム F91

闘いの記録

BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世纪
0093年 9月

地球連邦軍の機動戦術研究所
がサナリイ(河野和義研究室)
として再編される

0102年

サナリイ、MSの小型化を
連邦軍に要請

0106年

ロナ家、私設軍團クロスボーン
バンガードを結立

0111年 12月

サイド4、フロンティア・
サイドとして再編開始

0116年 7月

サナリイ、F91をロールアウト

0122年 12月

F91、フロンティアIに投入
される

0123年 3月16日

クロスボーン・バンガード、
フロンティア・サイドを襲撃

コスモ・パビリニア爆撃機制御装置

マイクター、ロナBフロン
ティアIに到着

19日 クロスボーン・バンガード、
フロンティアII、巨を制圧

22日 クロスボーン・バンガード、
フロンティアII、巨を制圧

F91、フロンティアIにて
クロスボーン・バンガードの
ドレッド大陸と交戦

26日 クロスボーン・バンガード、
フロンティアIIにて、コスモ・
パビリニア爆撃機制御装置

クロスボーン・バンガード、
フロンティアI制圧作戦を開始

F91、クロスボーン・バンガ
ードの前と交戦

30日 クロスボーン・バンガードの撤
収後、翌日でフロンティアIに
てモビリティを開始

F91、バグの大勝と交戦

F91、MABフレアと交戦、
これを撃退

0127年

コスモ・パビリニア爆撃

BATTLE DOCUMENT 01

RECORD

TIME: 00:00:12:33

PLACE: フロンティアI

ENEMY: クロスボーン・バンガードMS、テナン・ゲー
クロスボーン・バンガードMS、テナン・ゾン
パイロットはFLAMM大隊長

フロンティア・サイド（サイド4）
に突如侵攻を開始した、クロスボーン・
バンガード（以下C.V.）。彼らの繰り
出す新鋭MS部隊は、地球連邦軍の駐
留部隊をつづぎ撃破していく。能拘
れとなった連邦軍は、最新機F91
を中心にはさむわずかな戦力で反
攻を開始する……。奇しくもパイロッ
トになったのは、この機体に搭載され
たパイオ・コンピュータ開発者の息子、
シーブック。彼は、はじめてとは思え
ぬ操縦でC.Vと戦い合い、地球連邦軍
のMSがまったく前め立たなかった敵
を、単独で撃退するのだった。

クロスボーン・バンガードの攻撃に、長い平和な時代に慣れていた地
球連邦軍は絶縁で大きな打撃を受ける。反撃の闇は最新戦機、ガンダム
F91。伝説的名機の名を継いだこのMSが、新たな時代を切り開く。

母が造ったガンダム



斬撃な旧世代MSとは異なり、F91は最小
限MS以上の機動力と攻撃力を発せる。



F91、飛び立つ!

BATTLE DOCUMENT 02

RECORD

TIME: 14:00:12:33

PLACE: フロンティアI

ENEMY: クロスボーン・バンガードMS、テナン・ゲー
クロスボーン・バンガードMS、テナン・ゾン
クロスボーン・バンガードMS、ビギナ・オ
パイロット大佐、ロカ、黒の魔術員

C.V.のMS群が、再びフロンティア
Iへの侵入を試みる。シーブックは、
母が開拓に関わったというF91に母と
の絆を感じながら、出撃する。ビーム・
シールドを装備し、通常のビーム兵器
の通用しない相手を、新兵器ヴェス
パーで撃破するなど、F91は単機奮闘
し、一気に敵の旗艦と思しきMS、ビ
ギナ・ギナに内陣へ。だがその機体に
乗っていたのは、戦火のなか別れたガ
ルフレンドのセリーナだった。C.V.を
率いるロナ家の娘として出撃した彼女
は、やがてシーブックとともに生きる
ことを選び、連邦軍へと投降する……。

セシリーゲーとの再会



C.V.からの投降者、アンナマーのダギ
ルスと出撃するF91、ヘビーパン

驚異的な ヴェスパーの威力!



勝利への希望を背負ったガンダム

MS単独での巡航飛行まで可能となった時代。MSの機能性アップを推し進め、さらなる発展に導いた機体があった。“勝利”を冠した名前を持つ機体。Vガンダム。その名に込められた思いは、MSの新たな時代を切り開いた。

構成・文 石井 誠

地球連邦政府の疲弊と ザンスカール帝国の台頭

宇宙世纪も20世紀の半ばに差しかかったUC0149年、人類の多くは宇宙に移り、その生活にすっかりなじんでいた。地球連邦に所属するスペース・コロニーの数は数百にも膨れあがり、それぞれの政行の発展も強大となった状況において。地球連邦政府は、それらの調停役として機能するのすらやっとという状況であった。

そんな弱体化した連邦政府を相手に。各コロニーでは、スペースノイドの自治権を獲得しようとする運動が内燃していた。その運動は、サイト内でのコロニー政府との結束による政治組織の誕生や、コロニー政府との戦闘にまで発展。「宇宙戦国時代」とでも呼ぶべき状況となっていた。

そんななか、サイト2の中で地球から最も遠いコロニー、アメリカにおいて、ザンスカール帝国が建国された。ザンスカール帝国は、強大な結束力をもち、軍備を固めることでサイト2を平定し、0152年に地球本土への侵攻を開始する。

多数のコロニー政府の中でも最も強大な力を持ったザンスカール帝国を相手に、疲弊しきっていた地球連邦政府は、有効な反撃を行うことができ

なかった。ヨーロッパのラゲーンにある飛行場は、ペスパと呼ばれるザンスカール帝国軍に占拠され、橋頭堡として機能。そこから、大がかりな地雷網が作成されようとしていた。

勝利の象徴として復活した 伝説の機体、ガンダム

しかし、そんなザンスカール帝国に対する抵抗運動を行う組織が存続した。彼らの名は「聖神軍事同盟」(リガ・ミリティ)。民間の有志が集ったこの組織は、(歴史的につまりかにされてはいないか)巨大な資本や政治力を持つ存在のバッカアップを受け、自由に反攻の要となるMSの開発を行っていた。これは、旧態依然たる連戦型のMSを調達するよりも、より組織的特性や戦闘方に適した機体を独自に開発すべきとの判断を下したためである。ヨーロッパ各地で行われた、このMS開発計画は「V計画」と呼ばれ、新たな飛行MSを誕生させる。

抵拒運動の象徴として、歴代の英雄にあやかるように「ガンダム」の名を冠したこのMSは、Vガンダムと呼ばれた。

Vガンダムは0110年代以降に小型化されたM



翌年、ガンダムが開拓してじっとうを飛行した。
性能にも優れていた。

Sをさらに突き詰め、さまざまな状況に対応できるマルチブルM Sとして設計されていた。そして、Vガンダムに搭載されたミノフスキーフライト・システムは、飛行下における飛行移動を可能とし、M S単体での距離移動と既存にあわせた航空駆逐を可能とするものだった。この機能によって、M Sの行動半径がおおいに拡大することになる。さらに、生産性を向上させる設計と、武装の増強や機能強化。追加バーツによる拡張性をも見越した先見性も取り入れられていた。

M Sの運用性や汎用性をさらに押し広げる機体となったVガンダムは、「ガンダム」の名に恥じない高い性能を有しているのはもちろん。M Sをさらに新世代へと進化させる躍進もなった機体でもあった。

Basic Knowledge of G

ザンスカール帝国の誕生と宇宙戦国時代

UC0120年のコスモ・パビロニアによる貴族主義の勃興を契機に、各サイドのコロニー各政庁は、独立自治の方針を打ち出す。その中で0150年代に最大の力を示したのが、ザンスカール帝国だった。

ヒーリング能力を持つマリア・ビア・アーモニアを女王として立し、そのもとでザンスカール帝国は連邦政府支配からの脱離、地盤净化の実績、人種多文化システムの教育システム、一方、帝国の実質的指導者であるファンセ・カガチは、政治的武闘集団・ガチボを統率する。マリアによる教育を重視しながら、中世の魔術道具である魔口テンを用いた、魔術による恋愛政治を働くことで、民衆の間で人気を博す。その結果こそが、帝国を世界のコロニー政府をも超強大な国に成長させ、短時間のうちに強烈な体制を築き上げたのだった。

地球連邦政府はこの動きを警戒しており、政治組織としての立場をもつて放置していたと言ふても過言ではない。



ファンセ・カガチ

ザンスカール帝国の宰相にして、ガチボの党首。ペスパの魔術も執つており、帝国の実質的トップ。恐怖と教説を同時に与えて民衆の心を巧みに操作し、魔力爆発を経験する事に成功する。



ザンスカール帝国軍 (ペスパ)

ザンスカール帝国軍はサイト2の大躍進を実現した際、駐留していた連邦軍の興奮や研究施設を機械化し、軍備を強化。その要はラント盛でスマーバチを意味する「ペスパ」の名で呼ばれていた。

宇宙戦国時代に躍進を誇ったザンスカール帝国はいかにして誕生したのか。



クロノル・アシャー

女性マリアの実業家にして、帝国軍士官。ペスパの地盤への先遣船団「イエロー・ジャッケット」を率いて、地盤開拓に奔走。その後にVガンダムとはじめて遭遇する。以降、彼の胸中には常にVを置くことになる。



SPEC

駆動馬力: 1,000
本体重量: 10t
全備重量: 11t
ドライ・ターボ: 4700kW
ミストラル: 9700kg

基準材料: カーボン合金スチール
武装: 機関ハサウエー砲×2
・ムーサ・ヘルト
・ムーサ・トカ
・ホーリー・ムーラ
・ムーサ・アーヴィング
・ムーサ・モーリス
・ムーサ・ルート

イラスト・小笠原智史

LM312V04 VICTORY GUNDAM

Vガンダムの設計思想

正規軍でも企業でもないレジスタンス組織が推し進めた、先進的なMSの開発 それは、MSの行動範囲を変えるほど画期的な新技術と、それを最大限に活かすことができる機体構造の採用によって実現することができたのだ

マルチブルMSとしての先鋭化と変形・合体機構

上半身、下半身パーツは「消耗品」という斬新な機体構造が見えた、マルチブルMSの姿

大掛かりな施設を持たないリカ・ミリティアは、Vガンダムに連用性と複数性の高さを求めた。そこでコア・ブロックを中心にして、上半身と下半身をユニット化し、「消耗品」的に連用する構造を採用。十分な機銃や用具、要員を搭載できない状況下での整備、修理等へ対応している。各部位は飛行能力を有し、駆動中の破損ハーベス交換が可能だった。また、コア・ブロックは上半身、下半身ユニットのいずれかとのみ合体して戦闘機として戦闘を行え、そのままMS形態へと変形（全身のハーベスが壊れてはいけないもの）して対戦MS敵などと戦う。こうした多様な状況に即応できる構造には、かくてガンダムに求められた汎用性の高さ＝マルチブルMSとしての思想が息づいていると言える。



LM312V06 Vガンダムヘイカ

V-Gundamの頭部装備を交換してV型アーティナを装着。センサ、頭と通信機器を強化したタイコ・アーティカ機として多數が配備され、二ヶ所か装着している。

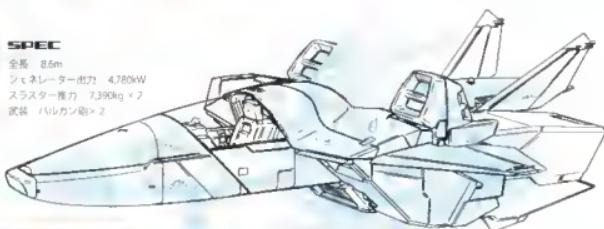
コア・ファイター

ミノフスキー・フライ特を実現した小型戦闘機

コア・ファイターには頸部のコンピュータ、胸部のコクピットと主操縦席という重要な部位が集中しており、コア・ファイターさえ回収すれば、少ない整備で何度も出撃が可能となっている。また、V-Gundamの飛行には一度も出撃していない。また、V-Gundamの飛行には一度も出撃していない。

SPEC

全長 8.6m
ミネレーター出力 4,780kW
スラスター推力 7,390kg × 2
武装 ハルカン砲 × 2

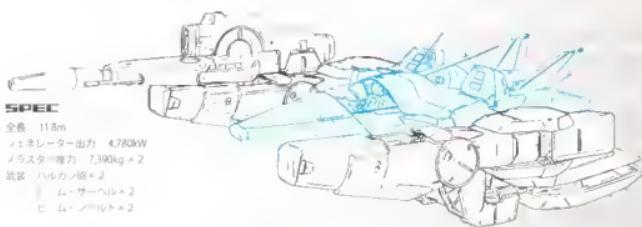


機体の小型化に伴い、コクピットは全天周型ではなく、半球状のモニターを採用している。

基地での物語力は低く、駆動時はコア・ファイターとボム・リムと合体しての運動が前進となる。

特に勢い伸びてからでもコア・ファイターのみが変形して分離し、離脱が可能。

机の頭部、胸部、主操縦器を構成する複数のモジュールを組み合わせて、機体を構成。背後のモジュールは、スリーピングモードで運用可能となる。



SPEC

全長 11.8m
ジェネレーター出力 4,780kW
スラスター推力 7,390kg × 2
武装 ハルカノゾク × 2
ム・サヘルム × 2
ヒ・ム・ノルト × 2



トップ・リム

、カノラムの翼部、頭部をメイ
に構成されているため、ハン
カーモード呼んでる 分離時はリ
モートコントロールで操作する。

M.S.に変形せども
この形態のままビーム
シールドを展開し、
防衛を行うことが可能。



M.S.時に両肩部、両腕部アーマーを構成する
トップ・リムと、コア・ファイターが合体した形態
ビーム・ライフル2挺の搭載に加え、4カ所のハード
ポイントに追加武装を装着できる。重武装機形態である
旋回性能やビーム・シールドによる防御性能が高く、
輸送機の護衛や制空権確保などの任務にも活用された。



ボトム・リム



機体の大部分が脚部ハーネスで占められたため、ブーストとも呼ばれる 黄銅
を大きいため、時には素体弾として、体当たり攻撃にも使われた。



機体の大部分が脚部ハーネスで占められたため、
ブーストとも呼ばれる 黄銅
を大きいため、時には素体弾として、
体当たり攻撃にも使われた。



Vダッシュ・コア・ブースター (コア・ファイター+オーバーハング・パック)

大出力スラスターとキャノン砲を装備

追加武装、オーバーハング・パックとコア・ファイターが合体した形態。
基本武装の強化に加え、航続距離の延長を実現している。ハードポイントの増設によるさらなる武装の追加も可能で、コア・ファイターの性能は大幅に向上している。オーバーハング・パックはM.S.形態時には機体
背部に背負うように配され、オーバーハング・キャノンと呼ばれる。



オーバーハング・パックを装備したま
でトップ・ファイターへの変形も可能。

トップ・ファイター (コア・ファイター+トップ・リム)

多彩な武器を携行できる重武装機

M.S.時に両肩部、両腕部アーマーを構成する
トップ・リムと、コア・ファイターが合体した形態
ビーム・ライフル2挺の搭載に加え、4カ所のハード
ポイントに追加武装を装着できる。重武装機形態である
旋回性能やビーム・シールドによる防御性能が高く、
輸送機の護衛や制空権確保などの任務にも活用された。



M.S.時に両肩部、両腕部アーマーを構成する
トップ・リムと、コア・ファイターが合体した形態
ビーム・ライフル2挺の搭載に加え、4カ所のハード
ポイントに追加武装を装着できる。重武装機形態である
旋回性能やビーム・シールドによる防御性能が高く、
輸送機の護衛や制空権確保などの任務にも活用された。

ボトム・ファイター (コア・ファイター+ボトム・リム)

加速性に優れた高攻撃戦闘機

M.S.時に両脚部と頭部アーマーを構成するボトム・リムと、
コア・ファイターが合体した形態。ふくらはぎと腰部
に補助推進装置があり、高い航行性能を発揮。機体側面
と下部に2ヶ所ずつ、計4ヶ所にハードポイントがあり、
ビーム・ライフルやその他の他の追加武装を装着する
ことができる。旋回性ははいさががるもの。機体
性能を活かした高速移動による逃走などで活躍した。



機体の大部分が脚部ハーネスで占められたため、
ブーストとも呼ばれる 黄銅
を大きいため、時には素体弾として、
体当たり攻撃にも使われた。

LM312V04 +SD-VB03A Vダッシュガンダム

SPEC

全高 12.3m
武装重量 9.2t
全重量 20.0t
ジェネレーター出力 5,970kW
スラスター推力 93,360kg
出力 26.0t × 2 4.42t × 8t

装甲材質 ガラーナイト合金
フレームアーマーの構成材
武装 ブーム・ライフル2挺
ビーム・ライフル2挺
ビーム・マストブーム
ビーム・ラムズ・ライフル
ビーム・ショルダード



Vダッシュ・
ガンダムにオーバーハン
グ・パックを装着した形態。

Weapons of LM312V04

Vガンダムの汎用性の高さをえた要因のひとつは、多種多様な武装を機体に容易に搭載することを可能とした、新しい武装強化システムだった。

ハードポイントを活用した武装強化システム

当機は変形、合体により戦況に対応するだけでなく、「ハードポイント」と呼ばれる規格化されたマウント部品を機体各部と装備の双方に設けており、多様な武器の搭載が可能とし、運用の幅をさらに広げていた。またこのシステムにより、飛行形態時の武装強化とMS形態時の予備装の確保をも実現していた。ちなみに、ライフルやバズーカなど通常はマニピュレーターを使って操作する武器も、ハードポイントに装着することで、トリガーを引かずとも発射することができる



V2ガンダムのハードポイント

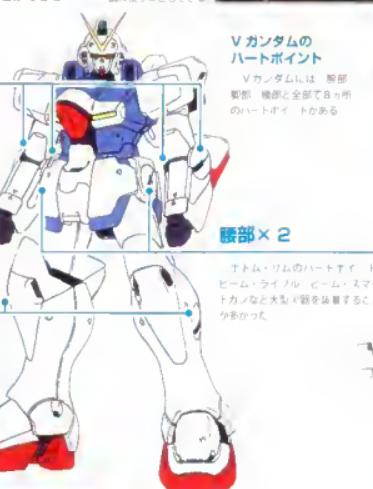
V2ガンダムも同様にハードポイントを有する。これはVダッシュ用のハイスピードキサも開発で、専用に必要な電力さえ供給できれば、武装の共用が可能なのだ。



V2ガンダムでは脚部のハードポイントがVガンダムより2基増えている。

腕部×4

両腕の肘部前部分の両サイドにそれぞれ1基ずつ備える。ちなみにライフルは、MSの手での操作も可能。



腰部×2

オトム・リムの腰体正面に位置するハードポイント。ビーム・カノンなどを装着することができた。



ハードポイントによる追加武装

ハードポイントには、本体に干渉しない限り、どの武装でも自由に装着することができる。対地攻撃や対空攻撃に特化した武装はもちろん、積めるだけの武装を満載して高速飛行を行い、戦闘中の機動に備けるなどとい、MSを輸送手段として使うことすら可能としている。



ハードポイントの配置

ハードポイントは、MS形態時では動作の妨げにならない場所に、飛行形態時は機体の側面や底面などの、攻撃に適した場所に配置されている



Vタッシュ・コア・ブースターのハードポイント

腰体上面に2つ、腹面上に3つと計5基の追加武装を行なうことができる

ビーム・カトリングカン



ディスポーザブル・バズ

V2ガンダムの場合は、実戦系の武装を搭載し、1コア発生器を装備した船への攻撃に特化した仕様にすることも可能。

ビーム・スマートカン

ビーム兵器

ビーム・ライフル

VGダムの生武具。たとえ装甲が破壊されてもクリーブ面刃部が残っていれば、ビーム・ライフルで使用が可能である。



ビーム・サーベル



前腕部に内蔵してある横刃型
電兵器。ビーム刀は真っ直ぐ伸び
るだけではなく、基部で扇子の
ように広がり、防御用にもなる。



ビーム・シールド

ビームを薄状に展開した防御兵器。ビーム・シールドの向方の攻撃を防ぐことができる。ビーム・サーベル同様に攻撃にも使用可能。



ビーム・スマートカン

ビーム・ライフルよりも高い攻撃力を有するロングレーチ・ビーム・スマートカン。装備したままで攻撃でも発射できる。



ハフトビーム・サーベル

長い柄と3本に分かれたビーム特機。ハンドのある攻撃を行える。ビーム・サーベルと手をさせると、ハンドルを握り可能。



ビーム・カノン

脚部高サイトのhardt pointに装備する、固定式のビーム兵器。スパイクを小型化したような形状で、普通能力に優れている。



オーバーハング・キャノン

オーバーハング・バークが装備する2門の大口径ビーム砲。取り外して携帯可能。射程距離は短いか、一時あたりの威力は極めて高い。



ビーム・カトリングカン

Vガルダム初に開発された、速射性の高い兵器。劇中ではVGダムには装備されず、ウルの愛用した。コア使用した。



実弾兵器

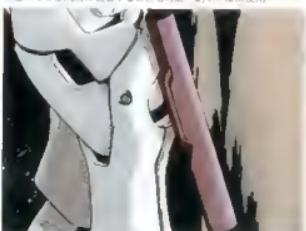
4連装ミサイル・ポッド

脚部や腰部に装備するミサイル兵器。対ビーム兵器を持つ機体に対し、有効な攻撃を行うことができる。V2カタリムでも使用。



ディスポーザブル・バズ

使い捨ての単発式バズ・カannon。ついで1つポイントに付し、機体に並べて2基同時に装備することも可能。劇中では未使用。



この時代においてMSの武装は、完全にビーム兵器が主力となっているが、支援用火器としてまだ活用の場が多い実弾兵器も、Vカタリム用に開発、運用されている。

頭部バルカン砲

近距離戦での要衝などに使用する。ガンダムに伝統的に装備されている実弾兵器。コア・ファイター形態時に唯一の武装となる。



闘いの記録

BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世纪
0139年 リガ・ミリティアの構築が、民間を中心に持ち上がる

0146年 マリア主導の爆風、サイド2のアメリア・コロニーにて政治組織ガガ党を結成

0147年 ガガ党、アメリア・コロニーの政権を奪う

0148年 リガ・ミリティア、実戦組織として再構成

0149年 サイド2においてガガ党、サンスカル帝国の艦隊を宣言

リガ・ミリティア、V計画を実行

0152年10月 サンスカル帝国のイエロー、ジャケットが地獄のラグーンにて復讐

0153年4月 リガ・ミリティア、Vガンダムの発売に成功

6日 Vガンダム、イエロー・ジャケットと共に登場

8日 武州のリガ・ミリティアが爆絶

27日 リガ・ミリティア爆滅、サンスカル帝国軍(ベスパ)の宇宙艦隊カラ・ヨリを包囲

6月4日 リガ・ミリティア爆滅、ズガン艦隊と交戦、炸裂

7日 リガ・ミリティア爆滅、マグドニア・コロニーに進撃

19日 ベスパのモトラッド爆滅、月面より発進

24日 モトラッド爆滅、メキシコ通り上空、北美大陸を北上

26日 サンスカル帝国と地獄艦隊の戦で体脂肪燃焼爆破

6月8日 ベスパ、ゲラン艦隊爆滅 リンホースとモウリット・アーヴ、宇宙へ

12日 リガ・ミリティア爆滅、ベスパ艦隊を包囲

20日 エンジェル・ハイロウ、地上に落下

23日 ベスパ艦隊爆滅 フォンセ・ガガ党死、エンリエル・ハイロウ、大陸上空で分裂し、敵に大爆破へ

BATTLE DOCUMENT 01

RECORD

TIME: UC152.4.6
PLACE: ラーニング街
ENEMY: ベスパ(MS、ゾロ
ベスパ(MS、トリアット
パイロットはクロノ・クル・アシャー、他)

故郷カサレリアで、サンスカル帝国のイエロー、ジャケットと共に登場された少年、ウッジ。人々を守るために、ウッジは奮闘する。激しさを増す闘いの中で、リガ・ミリティアのメンバーに代わって戦闘機、コア・ファイターを駆るウッジを、敵MSが狙う。あわや、という瞬間、コア・ファイターはリガ・ミリティアの工場から射出された2機のメカと合体し、白いMSと化す。その姿は、最強のMSとして名を残した伝説的名機、ガンダムによく似ていた。ウッジの運命は今、大きく動き始める――。

ガンダムと少年



合体したメカは、
"勝利" の名を冠するMS。Vガンダム
に変形。圧倒的な力
で敵MSを退けた。

BATTLE DOCUMENT 02

RECORD

TIME: UC153.4.27
PLACE: 霊山基地カイラス・ギリー基地
ENEMY: ベスパ(MB、コンティオ
パイロットはクロノ・アシャー)

衛星軌道上から地上の拠点をビーム攻撃可能なサンスカル帝国の宇宙要塞、カイラス・ギリー。地上に住む人々からさればこの要塞は、まさしく頭上の脅威だった。これを攻略せんとするリガ・ミリティア隊の中に、ウッジの姿もあった。しかし彼は、あまりに激しい戦闘に恐怖を覚え、身を隠ませる。だが、シュラク隊のジュンコ・ジエンゴの叱責を受けると同時に彼女の闘いぶりを前にして、ウッジは自分を取り戻す。やがて彼は、新たなる武器、八つ手ビーム、サーベルとビーム、スマートガンを駆使して、カイラス・ギリーを攻撃するのだった。

戦略衛星カイラス・ギリーを叩け



死の恐怖を感じ、本来の力を発揮でき
ないウッジは、次第に迷い込んでいく。

RECORD

TIME: 01:03:54

PLACE: ザンスカール帝国

ENEMY: ベルガMS、リグ・シャッコー

パイロット: コティオ

パイロット: カテジナ・ルース

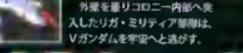
クロノ・クル・アシャー

ザンスカール帝国本國に到達したウッソたち。コロニーから脱出するためにマリアを人質にするが、その行動は阻止され囚われの身に。見せしめに殴かれたVガンダムを仲間たちが嘲諷し、再び脱出の路を開くが、かつての仲間、カテジナが立ち塞がる。一方コロニーの外では、総攻撃の準備が進んでいた。Vガンダムで、宇宙空間での戦闘に突入するウッソ、リガ・ミリティアはカラス・ギリーで作ったビッグキャノンを敵艦隊に向けるが、そこには惣隊が仕掛けられていた。ジンコが爆弾を解除しようとも失敗、彼女は爆風のなかに消える。機体から降りたウッソはビッグキャノンに取り付きビームを発射、敵艦隊を撃ち抜く。

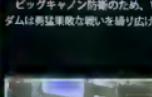
ザンスカール帝国本國への総攻撃



仲間の死、そして新たな決意



再び脱出を図ったウッソを狙うのは、変わり果てたカテジナだった。



PILOT

Vガンダムを駆った抵抗組織の戦士たち

Vガンダムは開発時から量産を前提とされていたため、そのパイロットも多数在籍している。リガ・ミリティアで最初にVガンダムに乗り込んだのは、女性パイロットのマベット。フィンガーハットだ。彼女がサレリアでの戦闘によって重傷したため、代わりにウッソ・エヴィンが、Vガンダムを本格活用することになったのだ。

その後、ウッソの乗るVガンダム以外にも、リカ・ミリティアではVガンダムの配備が進んでいく。ウッソの危機を救いに来たオフィラー・イノスも同時に書かれていたり、改良型のV2ガンダムへキサカ配備されしめると、それには女性部隊、シュラク隊の面々が搭乗していた。

ウッソが、新たに完成したV2ガンダムのメインパイロットに就任する、マベット・フィンガーハットが再びVガンダムのメイン・パイロットとなり、シュラク隊と共に戦闘に参加した。そして宇宙空間における最終戦闘で、Vガンダムは前歴で活用され得た。

このようにVガンダムは、ガンダムとしては珍しく量産されていたため、歴史上、最も多くのパイロットが搭乗するガンダムとなった。しかし、その歴史的な功績はやはり、高いMS確実性を持つ少年パイロットであるウッソの活躍によって挙げられたという側面が強いと言えるだろう。

ウッソ・エヴィン



PROFILE

Vガンダムの少帝(?)パイロット。道場に引き寄せられるうえに、尚ほ戦闘経験も少なかった彼女に偶然に見出され、彼女に飛行技術を教えた。

マベット・フィンガーハット



PROFILE

褐色の肌を持つVガンダムの女性パイロット。Vガンダムへキサカ搭乗アシstantも飛行、自らも搭乗して、ワープ飛行装置での飛行を実現する。

THE RIVAL

リカ・ミリティアにあって脅威となったザンスカール帝国のMS

ZM-S14S コンティオ

SPEC

全長高さ / 19.1m
全幅 / 10.0m
全重量 / 21.0t
ジェネレーター出力 / 5.960kW
スラスター出力 / 93.700kg
装甲材質 / パラティン合成材を多用した
武器 / 脚部ビーム砲x3
ビーム・ライフル
ビーム・サーフィンキス
ビーム・シールド



宇宙原初型MS。両肩にビーム・サーベルとしても使用できる有機式のショット・クローバーを装備し、オールレンジ攻撃を仕掛けることが可能。クロノ・クルが空戦戦闘時に愛用。

ZM-S22S リグ・シャッコー

SPEC

全長高さ / 15.0m
全幅 / 8.21m
全重量 / 18.0t
ジェネレーター出力 / 5.960kW
スラスター出力 / 77.000kg
装甲材質 / パラティン合成材を多用した
武器 / ビーム・ストリーム・ミサイル
ビーム・ライフルx2
ビーム・サーフィンキス
ビーム・フランクx2
ビーム・シールド
ビーム・ローター・シールド



試作MSシャッコーの量産機として、汎用性を高めた機体。次第一体型の新兵器、ビーム・ファンを備える。ザンスカール帝国に進つたカテジナが搭乗し、ウッソを苦しませた。

た機体、「タミー! ついでに」と、クロスホークカードに水をかけられていた技術レベル格差も埋まり、小型MSはひどいの完成形へと進化したとされる。



F71
Gキャノン

「タミー! F90」の後
の改良機で、高い
性能を持つ機体。以降
の多くの小型MSや量産
仕に大きな影響を与
えたとされる。

コスモ・バビロニア建国戦争後のMS

U.C.0120～0150

U.C.20年代以降、MSの趨勢は完全に小型機へと移り、それはF計画のひどいの倒産であった「1万メートル」としてRGMシリーズの型式番号を受け継ぐレムスカン、シャーベリンらの機体が誕生しF計画から脱却した。そこには引き継かれていたたがその後、U.C.50年代までMS開発はいわば停滞期を迎えていたとされる。なにしろ、連邦軍はもとより、地球連邦政府といううしろの力も、そのものが成長しなり、かつての姿勢を次第に失いついたのだから。



RGM-122
ジャベリン

「タミー! お兄弟
貴公子は、F01で
採用されたウェッスル
の発展形とも言える
ヨーロッパ」を
装備している。

サンスカル帝国のMS開発と 民間組織によるガンダムの誕生

U.C.0152

新興国家「サンスカル帝国」が小型MSの開発を実行していたのは理由がある。連邦軍の主力であるウェッスルは、サイトとの連邦軍駐留部隊を侵攻して没収されたが、ここには連邦軍の小型MSを開発を推進させた。サンリオの支援もあったのたが、ウェッスルは、主力におけるサブ・ライト、シーカーに耐えられないMSの技術難高難移動技術の開発に力を注ぎ、ヒーム・シールドの技術をもとにしたヒーム・ローターによる遠航飛行を成功させる。一方で、この技術の研究を契機に地球侵攻作戦が開始されたとまで、やがていわれる。

ウェッスルのMSの多くは、幸運とも呼ばれる、獨特の形状を持つ複式マルチセンサーを採用している。これは可視光線の領域に含まれない波長を感知する素子で構成されており、高精度な照像と諸データを装積できる。俺たるものあつた。

サンスカル帝国は、さまざまな機能や新機軸を盛り込んだ試作MSを戦場に投へし、それに

よって得た、一を活かした量産機を製造していく。奇抜な形状や発想の、ワンオフ機に近いMSも多々登場したが、主力となる汎用MSの製造と速やかな配備にも抜かりはなかった。

活用に満ちた、といえるサンスカル帝国のMS開発状況に対し、連邦軍は新型MSの開発を行なってはいるが、一方で、力不足でいたのは、すでに30年近くも稼働している機械であった。

サンスカル帝国に対する抵抗運動を行なっている民間組織カリミティアは、こうした連邦軍の開発代り勝利を集めるよりも、独自にMSを開発した方が効率よく活動を行なえると判断し、新型MSを開発計画「V計画」を始動。実験的な飛行技術「ミノフキー・ライト・システム」を有するマルチフルMS、Vガンダムを完成させる。さらに、V計画で培った技術を活かしながら生産性の高いスタンダードMS「カンイーシ」を量産することで、サンスカル帝国に抵抗した。

この時代、MSは最大のウイーキングポイントである移動の問題を克服し、万能兵器的能力を身につけたわけだ。それらは、新興国とそれに抗するレンジスタンス組織が作り出したものだった。

LM312V06

Vガンダムハキサ



ZM-S06S
ゾロアット

サンスカル帝国で
はじめて量産された宇
宙戦用の戦闘機。その
性能の高さから、帝国に
地球侵攻を実現させた
とも言われる。



ZM-S06G
ゾロ

M51 単脚巡航飛行を実現した動捕撃ヒーム・ローターを採用した。初のMS、地球侵攻作戦の主力として活躍した。



ZM-S22S
リグ・シャッコ

「タミー! 代わる
次期主力MS「素戔戦」
投入された新たな試作
機のデータが隠され
ている。近未来的な
スタイルも存在する」



LM111E03
ガンプラスター

ガンダム開発の過程で生まれた試作機から、量産機を廃して生産性や整備性を向上させながら、性能を維持した量産機。

LM111E02

カンイーシ



LM111E02
カンイーシ

Vガンダム開発の過程で生まれた試作機から、量産機を廃して生産性や整備性を向上させながら、性能を維持した量産機。



秘めたる力で“変身”するガンダム

地環連邦政府を覆すと言われる「ラプラスの箱」。そしてその箱の開放の「鍵」こそ、地球連邦宇宙軍再編計画内でも極秘のUC計画から生まれたMS、ユニコーンガンダム。フル・サイコフレームの絶い輝きが躍る、この機体に秘められた能力とは?

構成・文: 石井 雄誠

謎の地球連邦宇宙軍 再編計画——UC計画

UC0096年、シャアの反乱」と呼ばれる第2次ネオ・ジオン戦争から3年が経過し、サイド3のジオン共和国連合を数年後に控えて、一年戦争から始まったジエニスム闘争は、過去のものになろうとしていた。そんな世相にあっても、ジオンの名を継ぐ軍事組織が誕生したわけではなかった。補に特殊な装備を施したMSを駆り、「袖付き」と見られるジエニスム部隊(隕石は小さく、地球連邦軍からは正規軍ではなくテロリストグループと見なされていた)が、次第に活動を活性化させていた。

そんななか、地球連邦宇宙軍再編計画(その全容は明らかになっていない)の枠内、UC計画と呼ばれるプロジェクトが秘密裏に進行してお

り、その要として新たにMSの開発がアナハイム・エレクトロニクス社(以下、A社)によって行われていた。厳重な情報管理のもとで進行したため、計画の詳細が漏れ伝わることもなかった。しかし、A社が管理するエコピュー、インダストリアルアで起きた戦闘により、UC計画の一端が、思ひぬ形で世に露呈することになる。

新たな駆動式内骨格を 導入した、謎多きガンダム

事件当時インダストリアルアでは、ビスト附削と袖付きの闘で、地球連邦政府を脅威させかねないと言われる「ラプラスの箱」謎に囲む交渉が行われていた。それを阻止しようとした連邦宇宙軍と「袖付き」の間に、激しい戦闘が起こり、コロニーは軒轅に巻き込まれ。そこには、「袖付き」のMSを運営する見知らぬ機体の姿があった。

それは最終調整を行っていた、UC計画のフランシス・ビート、ユニコーンガンダムだった。ユニコーンガンダムは、前の第2次ネオ・ジオン戦争において初めて採用された、サイコフレームの技術をより本格的に導入している。

ハイロットの胸波や感応波(サイコウェーブ)



黒い
機体は、
宇宙を
飛ぶ
力がある
機体が
いる。

を受信・増幅するデバイスであるサイコミュ。サイコフレームは、超小型コンピュータ。チップを構造材に埋め込み、それをコクピット回りに採用することで、構造材を高効率のサイコミュー装備とするものだった。ユニコーンガンダムはムーブル・フレーム全体にサイコフレームを使用することにより、「圧倒的な逆従性の良さを持つ」。思考するだけでなく、操縦が不要な「機体として製造されている」らしいが、全容は解説されていない。フレームの描画と装甲の履歴によりデストロイモードへと「変身」した本機は、信じがたいほどの機動性を見せるが、それがガル。サイコフレームの核心にのみよるもののか、そしてなぜこのような性能を引き出せる必要があったのか。何一つ明らかになっていないのだから。また、各師団が日の色を変えて欲する、「ラプラスの箱」との関係性も不明である。

UC計画には、どんな秘密が隠されているのだろう?



ユニコーン・ガンダムの開発者はこの名前で呼ばれていた

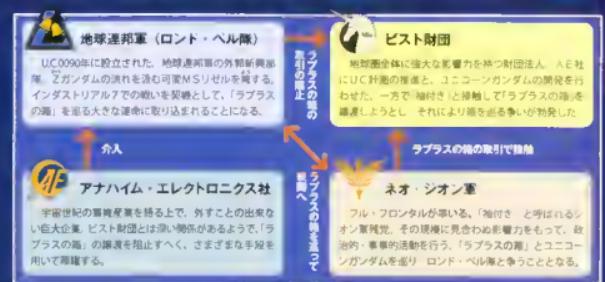
Basic Knowledge of "G"

第2次ネオ・ジオン戦争以降の状況

ジオン・ズム・ダイクンの遺児であるシャア・アズナブルとキャスバル・レム。ダイクンが起こした第2次ネオ・ジオン戦争は、地球を人間の居住できない環境にすると同時に、アースノイドの開拓を目的としていた。だがこの戦いは、新生オオ・ジオン軍の崩壊であるシャア・アズナブルの生死不明となり、終結した。結果、指導者不在の組織は自力で失ひ、自ら消滅的状況に陥ってしまった。しかし、一人の人物の登場の状況を一変させる、「シャアの再来」と呼ばれるフル・フロントルが登場し、そのカリスマで再び世界を掌握させたのだった。

そうした状況の中、その隕石は地球連邦政府を覆す力となると言われる。「ラプラスの箱」を開拓するビスト財団が、「箱」の開拓を進めて「袖付き」と呼ぶ。その影響力を知るA社と地環連邦軍もその行動を監視することなく、ユニコーンが誕生した地環連邦に再び現れる事となるのだった。

歴史の洪流に消えると思われたオオ・ジオンの名が、生き残っている状況とは?



SPEC

空飛
本体重量
全高重量 427kg
主武器 ライターアー出力 1400W
副武器
スラスター推進力 142,000kgf (計測不可)
ビーム・電気・光線・機雷・爆弾・計測装置
駆動装置 ガンダム用
武装 旗部 60mm (ビーム・砲) 2
ビーム・サーベル×4
ビーム・マグナム
ビーム・ズーカ
ビーム・カーリングガン
モード
全力 口内はデストコイドトモ



RX-0 UNICORN GUNDAM

イラスト: 小笠原智史

ユニコーンガンダムの設計思想

このMSの誕生の経緯には、高性能な兵器を生み出そうという目的とはまた別の、何者かの、なんらかの強い意思が介在しているように思われる。なぜなら、

パイロットを自ら選ぶガンダムに搭載された、謎のシステム

搭載された未知のシステムが持つ力、そしてその目的……この機体は我々の壁を孕んでいる

ユニコーンガムダムは、豊饒された搭乗者（そななるには、なんらかの資本や資本が必要らしい）なければ、機体の能力をフルに発揮することができない。いうなれば、機体が自らを操縦する者は誰なのだ。このような特殊なシステムを採用している理由は今とのところ不曉。どうやら、特典の乗組は済んでことで「ラブラスの旅」の所在地へと辿り着くための遠征を示すといふ。ユニコーンの機体に組み込まれた「ラブラスプログラム」上階6F、ているらしい。



ユニコーンは、起動時に一回り生報の登録を求める。それ以後、登録されれば、機体を扱うことができる。



特定条件下で起動するフロー。吸能制限を解除する。起動条件は特定のハ



NTD 搬動時にはノート形状
か変形することで 搬取者の脇支
を保護しやすくなる

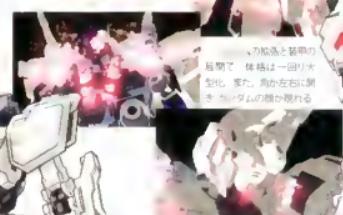
リミッター解除による“変身”

NT-Dの発動とともに、ユニコーンガンダムはその姿形を、大きく変貌させる。

リミッターが解除されると、ユニコーンカンダムはデスクロイドモードで「身兼」するが、機械の外観が変化するだけでなく、性能も飛躍的に上昇する。持てる性能を限界価値いっぱいまで発揮するとともに、パイロットの脳髄をダイレクトに侵蚀し、思考による機体の完全な操作力を可能とする。ただしサイバミューによるパイロットの脳と精神への、そして旭巻による肉体の脳への負荷の問題があり、稼働時間は5分間が限界となっている。



モード変換プロセス



、刀抜張と装甲の
差異で、体格は一回り大
型化。また、角か左右に開
いた、頭の形、頭の形



ユニコーンモード



「角獸のようなアンテナと純白の機体色が特徴的な、ユニコーンガンダムの通常形態。連邦軍の量産型MS群より基本性能は高いが、修理方法などは他のMSと変わらない



瞬間移動と見まかうほと
の機動性を誇る。露出した
ルームの輝さは、移動時
には先の軌跡を残す。



Weapons of RX-0

一見すると、ごくオーソドックスなものを挙げた印象を抱く、ユニコーンガンダムの装備。しかしそれらは機体同様に、強大な力を秘めているのだ。

MSの常識を超えた 最新鋭装備

本機のために用意された装備は、この時代のMSとしては当たり前のものばかりに思えるが、実はそれぞれが、標準的なものに比べて性能は人間にアップしている。なかには、これまでMSでの運用は考えられなかっただ、先進的な機能を持ったものも存在する。

実弾兵器

ユニコーンガンダムの実弾武装は、現在のところ固定武装である頭部「ルカン」のみが明らかとなっている。しかし今後携行兵器として、バズーカの登場も予定されている。



頭部ルカン砲

2門の80mm「ルカン砲」を装備。これのみ、他の一般的な連邦MSと同様の性能となっている。「変身」による干渉ではなく、ユニコーンモード、デストロイモードの構造変更が可能。

防御装備

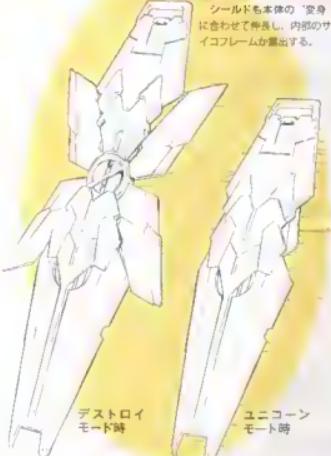
ユニコーンガンダムのために用意された専用シールドは、物理的な防御機能だけでなく、かつてはMS本体への搭載すら考えられなかつた、「フィールド発生器による耐ビーム機能を備えている

シールド

前胸部もしくはパンクバノンにマウントしての操作が可能。1フィールドによるビーム攻撃の無効化は、ユニコーンモード時にも有効だ。



シールドも本体の「変身」に合わせて伸長し、内部のサイコフレームが露出する。



ビーム兵器

ユニコーンガンダムの基本装備となるのは、やはりビーム兵器。サーベルは背部の2本に加えて、前胸部にも各1本ずつ装備している。そして、火炮はビーム・ライフルを大きく活用する力を持つ、ビーム・マグナムを使用することが可能だ。

ビーム・サーベル

ユニコーン専用のものを装備。通常は、基部に折りたたんで上部で収納されているが、使用時にはグリップが180°開闊。



ミニヒューラーで兼ね通常の使用法に加え、デストロイモード時には、展開した前腕部にマウントしてビーム・トンファとしても使用可能。

腕部や脇部への収納を考慮して、グリップは細長い形状となっている。

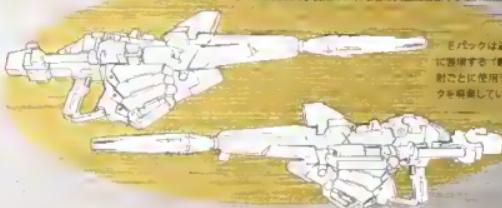
ビーム・マグナム

ビーム・マグナムは、1射での尋常の標準的ビーム・ライフル4射に相当する出力を持ち、搭載した「マグナム弾」と呼ばれるモバイクのエネルギーを、1射ですべて使い切る。その威力は凄まじく、かまつただけでMSを撃破するほど。



ビーム束は太く、艦艇やMAなどの大型の目標に威力を発揮している。

ミサイルは連結して本体に搭載するが、最大5基だ。射出ごとに使用済みのミサイルを消費していく。



PILOT ◀ バナージ・リンクス

ユニコーンガンダムの持つ「可能性」の力を聞く少年パイロット

ユニコーンガンダムに乗り込むことになった人物は、これまでの多くのカシンドムのパイロットがそうだったように、それはまたしても「民間人の少年だった」。事件の舞台となった工業コロニー・インダストリアルアリヤにあたる工業専門学校に通う学生であったリーナは、「健闘を止めに来た」と言う少女、オードリー・バーンと出会い、彼女と行動を共にするうちに、運命に引き寄せられるかのよう

にガンダムに乗り込むことになる。

彼の父はユニコーンガンダムの開発を指揮したピスト財團の理事長、カーディアス・ピストであり、インダストリアルアリヤを飲み込む戦火の中、死んだ父から直接ガントムを託されたのだった。運命車、シオンの車両が違う「ラプラスの魔」の秘密を持つ、ユニコーンガンダム。その争奪戦の中で、バナージはさまざまな体験を通して成長していく。



PROFILE

専門学校に通う15歳の少年。母親の死後、父の死後、そして自らの死後、世界が滅ぼされてしまう。しかし、それでも彼は生き残るために、自分自身の命を犠牲にすることを決意する。彼の想いは、世界を救うための力となる。

THE RIVAL

高い戦闘力を持つ「袖付き」のMS群が、ユニコーンガンダムを追い、その前へと立ち群がる

NZ-666 クシャトリヤ

SPEC

全長／22.6m 本体重量／25t
全備重量／74t
全備蓄電量／740kWh
ジェネレーター出力／16.540kW
スラスター出力／197.000kg
センサー・センサードリーム／35.900m
命中精度／ガソリナリム合会
武器／ビーム・サーベルビーム・ガン・光束メソッド
フレーム／アルミニウム
機動性／4.5
パイロット／アーヴィング・スミス
サンダー・キンシップ2
機動ビーム・サーベルX4



「袖付き」が発生した、ニュータイプ専用MS。武装、推進器、ファンネル、コンテナという多くの機能を有する4枚のインダーパネル。パンダードを駆動させることにより、巨体ながらも高い機動性を發揮する。また、ファンダードを用いたオーレーンの攻撃を可能としている。インダストリアルアリヤ内でロンド・バールのMS試作機と源歎を繰り広げ、ユニコーンガンダムを直撃させたるきっかけを作った。ネオ・ジオンの強化人間である女性パイロット、マリーダ・クルスが操縦している。

MSN-06S シナンジュ

SPEC

全長／22.6m 本体重量／25t
全備重量／36t
ジェネレーター出力／340kW
スラスター出力／20.000kg
センサー・センサードリーム／23.600m
命中精度／ガソリナリム合会
武器／ビーム・サーベルビーム
フレーム／アルミニウム
機動性／4.5
パイロット／ラム・カーラー



「袖付き」がA.E.社から強制した試作機。ムーバブル・フレームの一部にサイコフレームを採用しており、この機体から得られたデータはユニコーンガンダム開発に使われている。言うなれば本機は、ユニコーンの兄弟機種の存在である。鮮やかな源歎のボディに金色の装飾を施したこのMSは、高い運動性と機動性を誇る。パイロットであるフル・フレームの高さを操作技術に拘らず、視覚では「高い零度」の恐怖を感じさせるよう、極めて象徴的な存在となっている。



40m

現代ガンダム スペック一覧

これまで紹介したガンダムの、性能を見比べてみよう

30m

20m

10m



型式番号	RX-78-2	RX-79(G)Ft-B	RX-79(G)Ft-B	RX-78NT-1	RX-78GP01	RX-78GP01(Ft)	RX-78GP02A	RX-78GP02B	RX-78GP03	RX-179
名稱	ガンダム	機動戦士ガンダム	ガンダム E2B	アレ・クス	ガントム 試作1機	ガントム 試作1機 フルトーナン	ガントム 試作2機	ガントム 試作3機 スライム	ガントム 試作3機 テクノロビム	ガンダム E2B
実戦投入年月	UC 0079.9	UC 0079.10	UC 0079.11	UC 0079.12	UC 0083.10	UC 0083.11	UC 0083.10	UC 0083.11	UC 0083.11	UC 0087.3
頭頂高	18.0m	18.0m	18.0m	18.0m	18.0m	18.5m	18.0m	18.0m	38.5m・全高	18.5m
全備蓄電量	60.0t	73.0t	71.7t	72.5t	65.0t	74.0t	63.0t	70.0t	45.3t	54.1t
ショルダータンク	1.360kW	1.350kW	1.360kW	1.420kW	1.750kW	2.045kW	1.860kW	2.000kW	38.900kW	1.930kW
スラスター出力	55.500kg	52.000kg	53.000kg	174.000kg	108.000kg	234.000kg	155.200kg	189.000kg	2.265.000kg	81.200kg
機動性比	0.93	0.71	0.74	2.40	1.65	3.18	1.87	2.69	5.00	1.50

ガンダムという名の伝説

ガンダムの前にガンダムなし、ガンダムの後にガンダムなし。MS創成期から、読まることなく伝説を書き続けるMS、「ガンダム」とは…?

万能兵器、ガンダム

こゝアスキー粒子の散布環境における、電磁波妨害をはじめとするさまざまな「ノイズ」アスキー効果は、物理学には今までなく、軍事技術にも詳り知れない影響をもたらした。

中、接戦離ての索敵や誘導兵器の使用はおろか、味方との通話さえもま办ならない環境下では、まるで19世紀に舞い戻ったかのような、右翼界戦闘を全員なくされることになったのだ。

そこに登場したのが、人と同じような四肢を持ち、さまざまな撃発兵器を巧みに操ることのできる接近戦用機動兵器、MSザクだった。シオン公爵軍は、人間界において、地中戦用兵器の性に



サイドへのコロコロ立ち上がり、
×78カーブで、この機体が立ち上がり、
かた勢い崩れはしまつた。

飛び込んでの撃破（上）——内部にまで侵入しての制圧など、MSの用途の広さとその有利性を、充分すぎるほどに理解してみせた

連邦軍が対抗手段として開発したMS（試作機）が、RX-78 ガンダムである。専属したザクから基礎技術を学ぶと共に、連邦はこの機体の開発にあたり、MSの戦術における役割の再定位を行っている。最大の特徴は、対MS戦を前提としていることと、あととあらゆる環境下での運用を想定していることだ。自戦用MSに分動されながらも、サンダムはザクをはるかに超える、いわば「性能飞跃」したのだ。

アムロ、レイの優れた操縦能力と相まって、ガ
ンダムは終戦までのわずか3ヶ月半の間に驚異的
な戦果を挙げ、伝説的なMSとなる

ガンダムの名のもとに

以降、ある時は十分な予算を獲得するために、またある時は最高峰の技術の結晶であることを誇りとするため、さらにある時は羨ましい権力の象徴として ガンダムは造られ続けた かつて RX-78のパイロットだったアシロ・レイのために

製造された。専用機まで化けしている

こうしてMSは、時代ごとにさまざまな新技術を繰り出され、兵器として求められる機能も変化してきた。UC0150年代においては、それまでさまざまな手段で解消しようとした行動や、操作の狭さに関する問題も、ミノフキー・トラップという新次元の航行技術によってクリアされており、MSはRX78がめざした、万能兵器の域について達したものと言える（これを実現したのはV2「ガンダム」だ）。

M.S.の進化の道程においてガンダムは、常に最先端の技術や運命とでも呼べる特別な役割を与えられ、伝説として後世に語り継がれてきた。そしてこれからも、



「N5」と「N5」とは、実際の機能を同じ



MRX-009	MSZ-006	MRX-010	MSZ-010	RX-93	RX-0	RX-0	F91	LM312V04	LM314V21
サイコ ガンダム	Ζガンダム	サイコ ガンダム	ΖΖガンダム	Ζガンダム	ユニコーンガンダム	ユニコーンガンダム	ガンダムF91	Ζガンダム	ΖΖガンダム
UC0087.5	UC0087.5	UC0088.2	UC0088.3	UC0093.3	UC0096.4	UC0096.4	UC0123.3	UC0153.4	UC0153.5
40m (全高)	19.8m	39.98m	19.86m	22.0m	19.7m (全高)	21.7m (全高)	15.2m	15.2m	15.6m
386.6t	69.3t	263.9t	68.4t	63.0t	42.7t	42.7t	19.9t	17.7t	15.5t
33.600W	2.020W	19.760W	7.340W	2.980W	3.480W	3.480W	4.250W	4.780W	5.710W
168.000kg	112.600kg	244.240kg	101.000kg	97.800kg	142.600kg	142.600kg	68.400kg	79.700kg	66.790kg
0.43 (±2)	1.81	0.95 (±3)	1.48	1.55	3.34	3.34	4.44	4.50 (±4)	4.31 (±5)

GUNDAM SIDE STREAM

第6回 GUNDAM EVOLVE

CG技術などを積極的に取り入れ、MSの活躍を描いた『GUNDAM EVOLVE』シリーズ。今回はその中から、3DCGで描かれた宇宙世纪のガンダムを紹介しよう。

最新映像技術により描かれたガンダム

'90年代以降、めざましい進歩を遂げたCG技術は、新しい映像表現を生み出すこととなった。ガンダムシリーズにおいても、それら最新の映像技術を取り入れた作品が数作されている。このGUNDAM EVOLVEでは、それまでのアニメーションの技法とCGによる映像の融合に挑戦している。1作あたりそれぞれ10分ほどの短編はあるが、セル画・2DCG・3DCGなど多様な作画方法を駆使した映像により、MSの魅力を1分に見せてくれるのだ。また、歴史の間に押もれた筋間劇や、敵側から見たガンダムの脅威を描いた作品などもあり、見所も多い。01年の第1作『GUNDAM EVOLVE 1 RX-78-2 GUNDAM』以降、全15作が製作された。

RX-78GP04G

ガンダム試作

4号機 ガーベラ

カーナムが開発計画において突撃・強襲・格闘動作を想定して設計された機体。しかし、ガンダム試作1号機「フルマー」アンドコンセプトを重視するため、計画から外された。AE社に導入されたスイカ入手したGPRシリーズのデータのなかに、画像が登場している。



RX-78GP03 ガンタム試作3号機

「GUNDAM SIDE STREAM」の前作、AE社の「ビーフ・ロス」を登場した「ソーラー魔獣」と、開発中の「カーナム試作3号機」の戦闘を描く。「ここの3号機は、ステイメン・单体からオキラ・合体1・テリトロビウムなど、圧倒的人力で敵を殲滅。その戦闘力を見せつけている」

ステイメン



GUNDAM EVOLVE 5 より

RX-93 ν ガンダム



富野由悠季監督の書き下ろしストリによる、練動戦士カーナム、翼のアーナサウンド・リ・ガタムの看板のなか、劇場版とまた違うアムロ・レイとカス・ハラヤの交錯が描かれた

GUNDAM EVOLVE../9 より

MSZ-006-3A

Ζガンダム3号機A型

ホワイト・セータ

クリア版の着役のカカバのチャック研にて大気圏内飛行の主な汎用MSとして試験配備された3機のΖガンダム3号機、A型・B型・P2型と、ティターンズの秘密兵器であるサイコ・ブケミストとの戦闘を描く。ホワイト・セータは全天候機、カーナム戦体験「ワルンダイバー」で登場した。宇宙実験プロトローー号事件で登場した機体の改修機、エーコーのΖ・ターダムに焼いて開発された機体で、機動性の向上などと記された。高品質の壁用紙の「ノン・マスター」を装備し、宇宙空間から降下攻撃を仕掛けてくる敵に対応する。ハイロ・トヨタによる「ホワイト・ココロ」



オプション・ブースター装備時

ウェイブライター形態



MSZ-006-3B

Zガンダム3号機B型

クレイ・セータ

カリト・セ タが開拓した、チ・クラ筋に配備された機体。副ヒーム・コ・モ・ク・性強化のため、イエローのカラーリングにならなかったが、本來のクレイ・ワルフと言う通し名のハイロードの強度で、クライ仍然是はずつた。大型ヒーム・ランチャーを装備するなど、火力が強化されている。



ウェイブライター
形態

オプション・
ブースター装備時

MSZ-006-P2/3C Zガンダム3号機P2型 レット・セータ

Zガンダム3号機B型を「ユーダイ」改用機に改良した機体。ハイロードの思考や行動が機体に伝わられる。新型「ザ・ミ」サイコ・ニューロライザを搭載する。ハイロードは少し、トースターのコートネームで呼ばれるユウリ・アーノ サ



オプション・ブースター
装備時

ウェイブライター
形態

GUNDAM EVOLVE../10 より

MSZ-010S 強化型ZZ ガンダム

本星に原創したショット・ア・タとオーバーラン強化との戦闘を描く。この時の頃で、ZZ ガンダムは新たなる下革。多機をともに、その基性能化を実現している。



第1次オノ・ノオ戦争で、
一撃打ちで大破したアフカノ山に
隠れ合わせの下革
とハ・ハ・ハ・ハを装備した状態

GUNDAM EVOLVE../13 より

RX-178

ガンダム Mk-II

クリフス戦役にて、エヘコを追撃するデ・ターンスハイロード。主人公に、ソーフロー・ラン下革を相続した。ここであの Mk-II は、宇宙空間はもちろん、大気圏内でもフライング・アーマーに搭載して爆撃戦用に活躍。その強れた戦闘性と高い戦闘力を改めて証明した。



GUNDAM EVOLVE../15 より

RX-78 ガンダム

一年戦争末期の衝突を舞台に、オール・レンジ攻撃を仕掛けるコータイ専用 MA、ブラック・プロ。それを基構動でかわし、敵に向むかってカニダムとの過力ある戦闘ノーマンを開始する。ここで登場する ガンダムは、はじめてするすべての機体には、いずれも大型なデザインアレンジが施されている。



狂四郎が繰り出した、古い輝きをまとう機体の正体は!?

ガンダム狂四郎

作品ナンバー6 キングガンダム

メカデザイン&イラスト
やまと虹一
原作・グラフト

これが俺の
プラモ人生の集大成だ!!

キングガンダム(キングダム)

作 京田四郎

「な、なん!! あれは!!」突然プラモショーライターに現れた機体に驚く彼らたち。その金色の機体は、サイコ・ショックを一瞬のうちに撃破した「これがカッターナの王 キングダム!!」狂四郎の声が響く。右手上には軽量な改造プラモを両手で握る腕。左手には熱きプラモ魂を込めた聖杖「これが俺のプラモ人生30年の大成!!」だけど31年めには、もっとすごいカッタムを作ってみせるぜ!!」狂四郎の





ガンダムの世纪

皆河有伽

サナリイのF90(左)とアナハイム・エレクトロニクス社のMSA-120による撃闘戦

イラスト：沖一

第6回 内なる「ガンダム」、内なる「神話」

あら？ 1口が付いてるの

そのMSの頭を見るなり、見習い兵のマヌエラ・ハノバは言った。彼女の感覚を気にする様子もなく、整備兵はマスクを閉めさせる

マヌエラの中に艦長代理のアリー・エドベリは、MSの胸元に閉じたハッピーフラップを登り、

昔、こんな前のMSがあつたわねと頭部を覗き見た。消われるるやうにマヌエラもアリーに続き、どれどれ、と覗き込む。ねつゝとアリーから見を窺うように問いかけた

彼女たちの眼下にある頭は、人の頭を思わせる意匠だ

ああつ、とマヌエラは素っ面的な声で応える。ほら、ガンダムっていいたわね

マヌエラの口から出た名前は、アリーの記憶にもあつた。彼女は整備兵へのMSのコードを、ガンダムF91にすることを提案した。U C 0123年、コスモ・ハイドロニア連邦戦争勃発時、戦火に巻き込まれた新興都市のコロニー、フロンティアIVへ運び込まれていたサナリイの最新戦機F91は、こうして ガンダムとしてクロスボーン・パンガードに

抵抗すべく運用されることになった

もともと、彼女たちが ガンダム の実機を見たことはなかったはず。すでに一年戦争から40年あまりが経過している。この機体と、かつて ガンダム と呼ばれた機体との間に、はるかに歴史的な差違も、よく理解していかねば

F91の全高は 15 メートルほど。従来のガンダムタイプMSよりも數メートル小さい。

開発はサナリイ・0111年、サナリイはアナハイム・エレクトロニクス(以下AE)社とともに次期主力MS選定のコンペティションへ、F91の前身であるF90を提出していた。

次世代では、最大火力・神速性・運用コスト・機動戦力、の4つの点をコンピュータ・システムにおいて比較。前者ではAE社の提出したMSA-120、後者ではF90に軍配が上った。審査官たちは両者の優劣に決定的な評価を下せぬまま、模擬戦による二次審査を迎えることとなつた。

角斗と予想された模擬戦だが、結果はF90の勝利に終わった。圧倒的な勝利に居並ぶ審査官は感動さえも覚えたというから、その 完勝 ぶりがわかる

地球連邦軍は次期主力MSの開発をサナリイに任することとした。これに対してAE社は幾つかの政治的な力で加えたといわれるが、軍の決定を覆すことはできなかった。軍側より引き出せたのは、サナリイで開発された機体をAE社が委託生産するという程度の譲歩にすぎなかつた。

サナリイはF90 ガンダムF90 サポートタイプをベースに、F70 キャノン ガンダムを開発。軍はこの生産を4月へ委託した。F70は、前にF90の後継機 F91 の技術的成果を反映したこともあり、革新的と評価される試みだった。この機体をAE社はシェネレーター・スラスターを中心として自社の既製ハーフを流用すべく内戻す。F71 G キャノンとした。これによりF71は、同社製のRGM-109ヘビーガンと共に整備ハーフの持続性を持ち、高い生産性を持つこととなつた。また、支援専用機として不要な機能を廃除したことによって、性能的には従来の崩壊機とは、極めて異なるものとなつた。しかし、F70の革新性は失われて、性能的にも及ばなかつた。

MSA-120の敗北をAE社の体質の敗北であったと読み解く人もいる¹⁰⁾。

A E社は当時のMS同様、あまりにも肥大化していた。0083年のガンダム開発計画における機密漏洩事件が、各事業部ごとの独立性を高める結果となつたことは以前述べた。0080年代後期のZプロジェクトは全社的な取り組みだったが、これは極めて例外的なものだった（メラニー会長が率先して開発計画を推進した点が寄与したのだろう）。

事業部の独立性は結果的に各開発チームの技術的交流を阻害する結果を招いた。第2次ネオ・ジオ・ジン戦時、ネオ・ジオンのMSを開発した事業部からフォン・ブラウンのR9 93開発チームへサイコ・フレームの技術情報が与えられたのも、事業部といふよりはネオ・ジオン側の（とりわけ統帥であったシャア・アズナブルの個人的な）意図によるものだった。こうした中では技術情報は事業部単位のみが漏れされ、A E社全体としては極めて効率的な開発環境となっていたのだ。

だが、A E社は次期主力MS開発計画（ATMS）での敗北に因る、あるいは味方、冷感だった。サンナリの開発したF90の「完勝」は認めざるをえなかった。小型MS開発におけるA E社の技術はサンナリに劣っているのだ。突きつけられた事実をA E社は諒解に受け入れた。ただし、虚度さが常に正直な企業努力に繋がるわけではない。

連邦軍の主力MS開発から外されるという事態は、A E社にとってはおよそ30年ぶりのことだった。すでに社内にティーターンズの内臓した0080年代初期の停滞した空虚を知る者は少なかつたが、そのことが、この事態を未だ十分に認識させた。危機感の中、A E社は暴走する、かつてエウーゴを支援したように、0112年6月、A E社は非法活動に手を染める。

SFP (Silhouette Formula Project) — F計画の機密をサンナリより奪取し、新型MSを開発する計画へ踏み切るのだった。

*01 MSA-120は、小型化による機動性向上による主導権をもつ機体で、開拓はグラナダの事業部が担当した。

A E社はこの機体に、エネルギー兵器の技術を応用し、機動性を出しを確立させるガーブーストと呼ばれる新技術を採用。機動性の基礎を固めた。武装としてミソフスキー・クラフツを利用し、疑似武器を標準化させるハイバンパッケージを採用など、既存兵器の基盤と転用が造られた機体だった。もっとも、MSA-120の小型MSとしての完成度は決して高くなかった。接戦の結果、MSA-120は開拓軍によって半壊（軽M5）と判断されたとまで言われていた。



F70
キャノンガンダム



F71B
Gキャノン・マグナ

*02 F90のミノノムハクは機体の完成後、瞬時に開拓が行われている（別添）

サンナリはF90の発見と同行して、F91以後の主力MSを掌握した。これにより、サンナリはF91の完成に先駆けてF90を「ラウラスター・ガンダム」を完成させている

*03 ヒーム・シールドは従来の「フィルトによるバリア」と異なり「ヒーム・サーベル」のよう。高密度のミスフィルムを投入することで、ヒーム・実体側の方向を防ぐというものである。ヒーム・シールドの実用化は、B・ホスを脅威に見做すロスコーン・ハンガードにおいて実現された。0120年にはF90 2号機を強化した火薬充填立



F90
Gガンダム

オシ蓄の機体への装備も確認されているが、これはグラスボーン・ハーガードによる技術供与の結果だ（注）。サンナリでの実機への搭載は0121年に実現したF90が最初である

*04 0111年のATMSではサンナリのF90が選ばれ、F91を次期主力MSとする予定がなされたが、0119年、RGM-109の開拓機はA E社のRGM-119ジムスルムとなつた。これはF91が基盤飛行して置き換わられたことを示唆しているのだろう。RGM-119の開拓投入は開拓の流れながら0123年以降といわれるが、フレームや多くのバージョンを共有する宇宙軍のRGM-122 シャーリンとともに、以後30年以上わたって運用された



F90
Gガンダム

展されたものだった。

MCA構造の確立によって、F91はF90以上の高いパワーウェイトレシオが実現され、機動性は大幅に向上了。これは被弾率の低下をもたらしたが、同時に、特定のレベルのパイロット以外には最大稼動時の運用が不可能な機体となってしまった。そこで、F91にはミッターが設けられ、制御用のコンピュータ搭乗乗員を機体の最大稼動に対応可能なパイロットであると判断したときのみ、解除される仕様とされた。

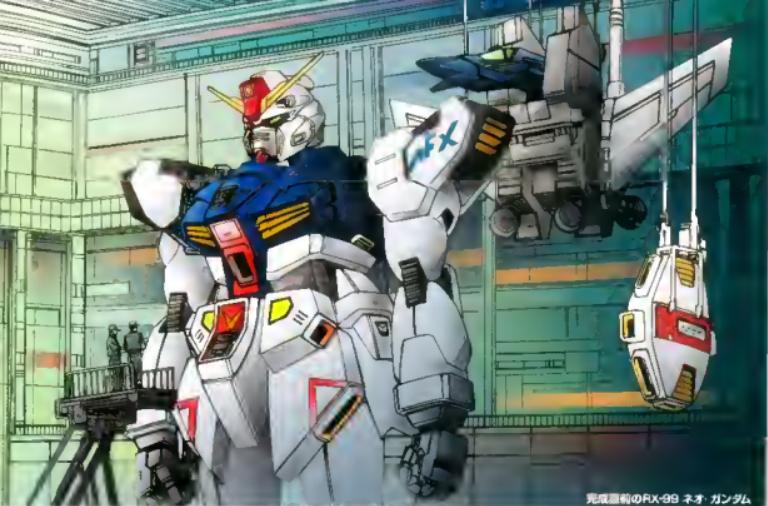
F91の最大稼動は機体温度の上昇を伴うため、各部の冷却は必須であった。とりわけ、F91の制御用コンピュータは生体部品を利用したハイオ・コンピュータを採用していたことから、從来機以上に排熱対策が必要とされた。F91の頭部には強熱を嫌うハイオ・コンピュータを冷却するための扇風機が納められており、最大稼動時はフェイスガードを開き、排熱を行なう構造とされている。また、装甲からの放熱のため、機体表面のコーティングを剥離させる、このMEPE (Metal Peel Off Effect) と呼ばれる状態が生じると、F91の航戦性能に向かって機体が変形して残る。残像は装甲のコーティングであることから質量を有しており、あたかもF91が分身しているかのような危険を抱くに与えたといふ。

ちなみに、ハイオ・コンピュータはもともと、モニカ・アーノード博士によって、障がい者のために考案、研究が進められたものである。モニカ博士はF91のパイロットとなったシーブック・アーノの母だった。

ダグデンバイガーやコンピュータ・システムの改良も検討していた。そのなかで、民間で研究されていたハイオ・コンピュータが操縦者の記憶や感情を積極的に機体操作へ取り込むことによる、センサー系の情報をパラオットへ直接伝達するため、MSへの技術転用を行ったという（ハイオ・コンピュータ

F90に用意されたミッションパック例

- A. アルトゥルタイプ
ミクフキー・クラフトを採用した表面強化改修用装備
- B. ダストロードタイプ
機動力の面倒化用の装備
- C. ハイタイプ
半自動装填用の装備
- D. ハーバータイプ
ホーリー移動用の一翼駆動脱戦脱戦を標準化した装備
- E. インターアクトタイプ
連携用センサーを主導として開拓された装備
- F. リンクリングタイプ
基盤飛行からの中程、改修のために設けられた
- G. マジマライズ
田舎の駅の水槽や廻船5つを参考に開拓されたための中間用改修装備
- H. ブラジットタイプ
大型駆逐攻撃用にした装備（武装荷物ではなく、乗員用の武装のみ）
- I. サポートタイプ
ハイオ・Dタイプの作動用動力支障を地面上用強化装備
- J. クラスター・タイプ
爆弾・ロケットの装備、改修のために設けられた
- K. クラスター・タイプ
ロケット・スティックのオペレーバーとして開拓されたオプションを接続



本章最初の日付: 2023-09-20 作者: ジャンクル

はF90 2号機を改修したF90II ジャストアートされ、F91への搭載となった)つまり、モーサー情報はモニターへ表示されるのではなく、機体が 感じた ことをハイロードにも認識させようとしたのだ。

F91は武器1号機から5号機のデータ連携機能をオート化し、01/20 年代中期より少しづつが導入された この量産機はエース、ハイロードタイプとして01/30 年代まで運用されている。人規格な乱戦から起らなかった点を差し引いても、F91の基本設計の優秀さを匂付ける事例がいくつもある。⁷⁴⁾

影の F91

AE社が具体的にどのような手段でF計画の機密情報を復元したかは明らかになっていない。ただ、SFPの発動後の技術発展が、計画の規模と成果を教えてくれる。

かつて自社の小型化技術の低さからF70の革新性を失わせ、F71として届けられるを得なかったA社は0123年、この機体を独自に改良、F71B Cキャノン・マグナとして完成させている。また、F70そのものを改良するとして、FMS軌道開拓機体 RGM-111 バーディガンの開発にも成功した。

こうした流れの中、開発陣が怖んだのは、サナリイの最新鋭機のクローン機を造ることだった。機体はRXF-91の型式番号ヒルエット・ガントムの名を冠された。開発者が追められた もっとも、開発陣はF91の諸データを入手こそしていたものの、まったく

同じものを開拓することは不可能だった
サナリイにはM5の製造を統制する意思もあった
といつれ、多くの技術が製造を委託された企業に対
しても非公開とされていた

ていたか、ハノオ、タマタについては非公開となっていた。ハイオ・タマタは丸ノ内でも開発を進めていたものの、未完成であり、制御系には高性能電動型コピーライタを採用するほかなかった。ヒーム・シールトについても技術的不満の薄さから、F91とは外観の異なる仕様となってしまった。特に、困難を極めたのはF91版強引な仮装である。エヴァンゲリオンの登場した。

ウェスパー V S B R Variable Speed Beam Rifle (可変速ビーム・ライフル) は高速で貫通力に優れたビームと、低速で破壊力のあるビームを撃ち分けることのできる、人型ヒーロー、ライフルである。

実用化にあたっては人規程コンデンサーの開発が不可欠であった。A社はサナリから入手した当該部品の解説を1分で理解できなかつた。開発陣は人規程コンデンサーをエネルギー(A P技術によって代用しようとしたのである)失敗入とした設計データをそのまま再構成しかできなかつた。このため、RXF 91のウェスパーは取り外し可能な前部パネルとなつた。

結果、F91のクローン機という位置づけでありながらも、RXF 91はAE社のそれまでの機体からの派生技術の沿用が多いものとなった。このため、F91に匹敵する軽量化の達成は叶わなかかった。しかし、エレベーター出力はF91を上回り、総合的にはオリナルと同等の性能を実現していたという。

その後、RXF 91はRXF 91A シルエット・カナダ改として改修され、SFPは最終段階へ進んだ。A社はSFPで得られた技術情報に、これまで培ったカナダ・タイアップMSのコネセフを盛り込んだRXF 91ネオ・カナダムを完成。ここにおいてようやくサナリィの技術水準に追いつくことができた。

拡散と停滞、そして革新

0110年代から本格化した小型MSへの移行は、MS産業におけるA社の寡占体制を崩すものだった。サナリイを中心として、軍上層でMS産業を内輪に編成しようという動きがこれを加速したのは、すでに記述した。しかし、サナリイによるMS製造の統制もまた、実現されることはないかった。

地球圏における紛争は0123年のクロスボーン・レガードによるコスマ・ハピニア王国帆船をはじめとして、0130年代にやっても絶えることがなかつた。しかし、一年戦争から第2次ネオ・シオン戦争にかけて起きた叛乱などの規模ではなく、地球圏の政治的安寧のためには連邦軍が必要とするMSの総数は減少傾向を示した。

こうしたなか、AE社はMS産業の独立といふ方向性を転換。他社との共存という形でMS産業そのものを維持しようとした。0130年代以降、AE社は周辺企業への OEM供給などを積極的に行う。開発拠点は分散化し、しかも、各拠点の生産設備や設計の特徴化が進んでいった。

特にMS技術が広く拡散していった0140年代は、特に「宇宙開拓時代」と呼称される。コロニー単位の内閣土義（コロニー土義）時代の到来に重なって、

コスモ・ハビロニア辺境戦における連邦政府の対応は、各コロニーに連邦軍による軍事的駐留への不安を増大させた。各コロニーは連邦軍駐留部隊の撤去や正常時の月面連邦艦隊の投入の確約を要求したが、連邦政府は無視しきれた。

コロニー単位での経済格差、住民の意識の隔たりは非常に人気なものとなっており、コロニー間の対立も激しいものとなっていた。連邦政府は各コロニー

GUNPLA ガンプラ30年の歩み Revelations!



■6■ MGからRGへ その先にあるガンプラの未来

MGが迎えた 100アイテムという節目

95年にデビューしたMGは、ブランドを立ち上げて12年目の'07年、通算100体めのアイテム発売を控えようとしていた。

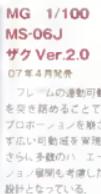
100体めの製品発売に向け、ます一年戦時の大MS群を大幅にアップデートした製品、Ver.2.0のリリースがスタートした。最初の節目となったこの製品は、従来型やシカのVer.2.0。これは、フレームの運動やむねの表現などができる機構を取り入れ、アニメ本編での印象的なアクションを完璧に再現できる完成度の高さを誇っていた。この製品にかけられた技術は、日本ならではの優れた製品を選ぶる「新日本様式100選」（新日本様式協議会選定）に選ばれたのものだった。

その後 滝を打つて100体めのMG シード、ミードの1葉メサイン的な手法で冴げられた逸品。ターンエーガンダム。このキットは、ターンエース特有の発光部ディテールとプロポーションを崩さずに大きな可動域をもつていて成功しており、ケオリティの高さは、まさしくブランドが迎えた節目を飾るにふさわしいものだった。



MG 1/100
WG-M01
ターンエーガンダム
予定発売

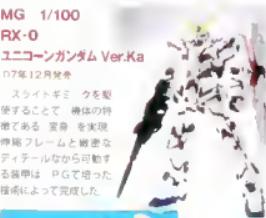
MG100体めの記念
マイテム 流線形のブ
ボーナムとフイン
を重ねたようなフレー
ムという特殊な形状を、
ニサイン・メーンを活
用してオート化。



30年間蓄えた 技術が生んだ、RG

次にMCが挑んだのは、P.G的なMGのアーリー・リストアだった。過去に例を見ない「変身する」カンダムである。ユニコーン・ガンダムの製品化が決定したのと、仲輪するフレームと、展開ギミックを持ちながらも組み成形された装甲、それらが持つ緻密な機構による「変身」ギミックの内蔵をこのキットは見事にこなす。さらに、変身により露出するサイコ・フレームには、発光をイメージさせる素材を配している。その仕様は、究極のガンダムP.G化と言える領域にまで達していた。

08年には、Mjとして5体めのRX 78-2ガンダム、ガンダムVer.2.0が発表された。その後改良版として、アカツキの設定版のプロポーションを廻し、劇中のアランをモチーフに内実現可能にした本製品は、ザクVer.2.0以降の機動フレーム構造により実現した。このようにMjが好評な展開を見せるなかで、メーカーは、ガンダムを題材にスケールモデル的なティール表現の可能性を追求する。LIC HARDGRAPHシリーズを発表する。よりリアルな戦闘の「コマ」を取り切ったかのような解説は、ガンダムの世界觀をいもうとした人による。



**MG 1/100
RX-78-2
ガンダム Ver.2.0**
08年7月発売
映画のフルバージョンながら、まるでまるでボーリングか可能な内部フレームは、カノンズの可動を追求して到了極端に進化した。可動表現におけるひとつひとつの到達点となっている

そして カンフラーが30周年を迎えた10年 新たな「グラ」ト漫画「した」それは 1/144スケールで、Mとレヘルの可動と精度を実現しようと するものであった。RGと名付けられたブランドの 製品第1弾は、1/144カナダムリ像とモチーフに しつつ、PGで培われたシステムインジェクションの 挿用により、簡単に組み立てられ、広い可動域を 持つフレームを導入していく。さらには、装甲 枚ごとに異なる色味を好みなバーコ分割で再現す るとともに、高難度なディテールも取り込まれて いた。カンフラーの恵点である1/144スケールに、 塗った技術が凝縮されており、カンフラーに初めて 触れるファン、「す」とカンフラーを愛し続けてきた ファンのどちらにも ける楽しさを内認識させて くれる「君」がいる。」

こうしてRGは、カンブラの新たな歴史を担う形でスタートを切った。しかしこの新ブランドの可能性は、それだけにとどまらない。RGは、今後もさらなるリアルを追求していくという。

30年という年月を経て、自動ロボットプラモデルの可能性を探索し続けてきた。カンブラ これからも、新たな技術と予想を超える発想力によって、「作る楽しさ」を提供し続けてくれることを期待したい。



UCHG 1/35 地球連邦軍61式戦車5型 セモベンテ隊



GUNPLA FRONT LINE 30th

OVA 機動戦士ガンダムUC episode2 発売に合わせて、MS群もそくそく登場！

おおいに盛り上がりを見せる ガンダムUC。 今回は敵側のメインメカ、シナンジュをはじめ、連続リースされるキットを紹介

1月12日のOVA ガンダムUC 第2巻より
「吉野一劇中で新たに活躍するMSのオ・1化が進行中」 ナラの再来と呼ばれるフル・バコ・タルの劇場ごとアーニア専用機を想起させるシナンジュ。 機動戦士ガンダム、に登場した式の流れをくみ ウィザーフライター形態に変形可能な試作機 テルラフライ・専用機をカスタマイズし、ハーナルカラーハズの専用機として登場する。 アンフェロ専用のカラ・スルの機も 第1巻に合わせた ガンダムUCの「アム」に比肩するアーニア専用機。 ガンダムの過去の歴史を語っている人ほど 思わず心を惹かれる機体かな。

HGUC 1/144 MSN-001A1 デルタプラス

価格 23,00円(税込) 好評発売中 発売元 タカラトミー

赤い機体色が目を引く ユーフラタムのハイハーナルカラーハズも登場や。



日本押しながら いろいろなカナヘントかな

そして 本編に登場される新たな ふい彗星による名前を見れば そのイメージを日本の方で再現すべく、きっとこれらのキーワードを手に入れてしまはうだ

HGUC 1/144

MSN-001A1 デルタプラス

価格 23,00円(税込) 好評発売中 発売元 タカラトミー



HGUC 1/144 AMS-129

ギラ・スール アンジェロ・ザウバー専用

価格 25,00円(税込) 好評発売中 発売元 タカラトミー



「いいのか…」
「嘘つ催化
ためのブースト
下と長距離攻
略といつも装備
か、真っ裸で、出
で立ちとなっている

RGシリーズ第2弾は 「赤い彗星」の愛機に決定！

ガンダム最新人気ブランドの第2弾アイテムとして発表されたのはシャア専用ザク。 RGガンダムと並び立つディテールを持つデザインと、専用の内部フレームによって、ファン待望の1/144スケール実機のザクがまもなくリースされる。

RG 1/144 MS-06S シャア・アスナブル専用ザク

価格 30,00円(税込) 好評発売中 発売元 タカラトミー



RG シリーズ第2弾は「赤い彗星」の愛機に決定！
両のアーニア式MSシャイアも年内発売予定。



写真は販売中のホビーワークス

今月の お買い得入り 作

MG 1/100 ガンダムアグストレイ ドフレーム ブルーフレーム

バリエーション機のデザインの差異などを競うできるのも、機種の楽しいところ。部分的にメタリックの塗装を施した機体も可動性の良さがアピールの鍵となる。



川口名人 とことんプラモ主義

毎月異なるテーマで、プラモを解説する連載企画。

現在ガンプラは国内だけではなく、海外でも多くの方に楽しめている。ガンプラコンテストなどで実際に海外ユーザーへや彼らの作品に擬する機会も多いのですが、取材などの際に「海外ユーザーが作るガンプラはどうですか?」とよく聞かれる。スキルレベルで言うなら、国内外のモデルの差異を気にしない、模型やゲーム、ネットで交わされる作品評を介して、作品そのものに対する理解度も高い。新製品も国内とほぼ同じタイミングで発売されるし、ネットを通じた情報の取得はボーダーは無い。ツールやマテリアルも入手しただけで、絶対作例が出来ると錯覚する人もいる。そんな意識が高じてくると、自分の怠い描く完成像を具現化するためには色々な知識やツールを使おうという構図が蘇る。そのため、知識を学ぶことをやつけることが「目的」にすり替わってしまうことがあるようだ。

知識は既成でして初めて技術として身に付くものであり、作り続けることでスキルは上がる。身に付いたスキルは、応用することで新たなスキルとなる。模型週刊誌は絶対点などというものは存在しないのである。

GUNDAM MS HISTORICA 全6巻 大好評発売中!

各巻定価 1,910円(税込) A5判変型判 角背 中とじ オールカラー 36ページ

Vol.1 白の伝説——初代ガンダム

GUNDAM
MS HISTORICA



紹介機種 RX-78-2 ガンダム

Vol.2 Gを継ぐもの——ガンダム直系機

Vol.3 高みへの飛翔——翼を得たガンダム



紹介機種 RX-78-2 ガンダム
RX-178 ガンダム Mk-II
RX-79(G) 離職者ガンダム
RX-79(E) E2-E ガンダム E2B



紹介機種 MSZ-006 ガンダム
LM314V21 V2 ガンダム

Vol.4 薙摺の鬼神——ニュータイプ専用機

Vol.5 宇宙を震わせる脅威——重量級ガンダム



紹介機種 RX-78NT-1 アレックス
MTX-00 サイコ・ガンダム
MTX-01 サイコ・ガンダム Mk-II
RX-93 ハイ・ガンダム



紹介機種 RX-78GP01 ガンダム試作1号機
RX-78GP02 ガンダム試作2号機
RX-78GP03 ガンダム試作3号機
MSZ-010 ZZ ガンダム

Gを超えて、先へと進むもの

■ 第1回 戦闘
新機紀を駆けた新世代機
The Attacker of the New Era: New Generation War

■ 第2回 勝利への希望を背負ったガンダム
The Attacker of the New Era: V2 ガンダムの誕生
Weapons of V2 ガンダム

■ 第3回 勝利への希望
武器の力で「死闘」するガンダム
Weapons of V2 ガンダム

■ 第4回 勝利への希望を背負ったガンダム
The Attacker of the New Era: V2 ガンダムの誕生
Weapons of V2 ガンダム

■ 第5回 ニュータイプ
RX-0 ニューコンバットザム PILOT THE RIVAL
Gundam: New Type

■ 第6回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第7回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第8回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第9回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第10回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第11回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第12回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第13回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第14回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第15回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第16回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第17回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

■ 第18回 GUNDAM SIDESTORY
GUNDAM SIDESTORY

02

04

06

07

08

10

12

14

16

18

20

22

24

25

26

28

29

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

